



教学 IR レター vol.1

群馬大学 大学教育・学生支援機構

教育改革推進室 二宮 祐・幾田 英夫

(内線：7521)

2018年11月発行(第1号)

巻頭言

このたび『教学 IR レター』を発行することとなりました。

我が国の高等教育は大綱化以降、法人化・IT技術の進展・グローバル化の波を受け大きく変革しております。また政府財源の緊迫化により運営費交付金が年々減少するなど大変厳しい環境にあります。

我が群馬大学におきましても、この流れの中にあります。

群馬県は、近年ネット上では何かと異端の地の扱いをされ、これが魅力度ランキングなどに反映される結果となっています。群馬県内の皆様には本当の様子はわかっているもの、それでも人口流出の動きは止まっていません。「力あわせる200万」と上毛かるたにはありますが、それも今は外国人を入れて198万人というところまで減ってしまいました。

地域に根ざす群馬大学としましては、群馬県を支える教育の一大拠点としての自覚の下に教育・研究を行うミッションがあります。しかしながら、複雑化する現代社会の中で大学を取り巻く問題が見えづらくなってきているところがあり、どのような教育・研究を行っていけばよいのか、判断が難しい時代となっているのではないのでしょうか。

IRとはそのような要請に応えるべく存在しています。IRとは1960年代のアメリカに歴史を求めることができるそうですが、要は大学の戦略決定や適切な業務遂行に必要な情報を収集し、分析して利用可能なものとして学内関係者に提供する部署のことです。当初から実践が重んじられてきたため、学問的にも整理されてきた分野でないため、定義すら確定的なもの

はありません。そのため我が国の大学のIRのあり方も各大学で千差万別とあっていい状況にあります。

群馬大学では平成28年7月に、大学教育・学生支援機構の中に教育改革推進室を新設し、二宮祐准教授を招聘して教学IRへの準備を行ってきました。

このたび教学IRがようやくスタートする運びとなりました。本学の教育改善に資する情報を提供できるよう努力してまいります。

教職員の皆様方のご協力のほどよろしくお願いいたします。

教学 IR とは

さて、その「教学IR」ですが、そもそもなんなんって方も多いと思います。

IRとはInstitutional Researchの略です。世間ではIRというと、投資の世界で企業の業績などをデータで説明することの用語として使われることが一般的です。大学の世界でもエビデンスを基に経営することが重要とされ、このエビデンスを専門的に取り扱う組織や職員が設置される動きになっています。

本学の教学IRもこの流れの中で動いてきたものであります。

「教学」ですので、本学の教育面を中心に有用なデータを提供できればと考えております。

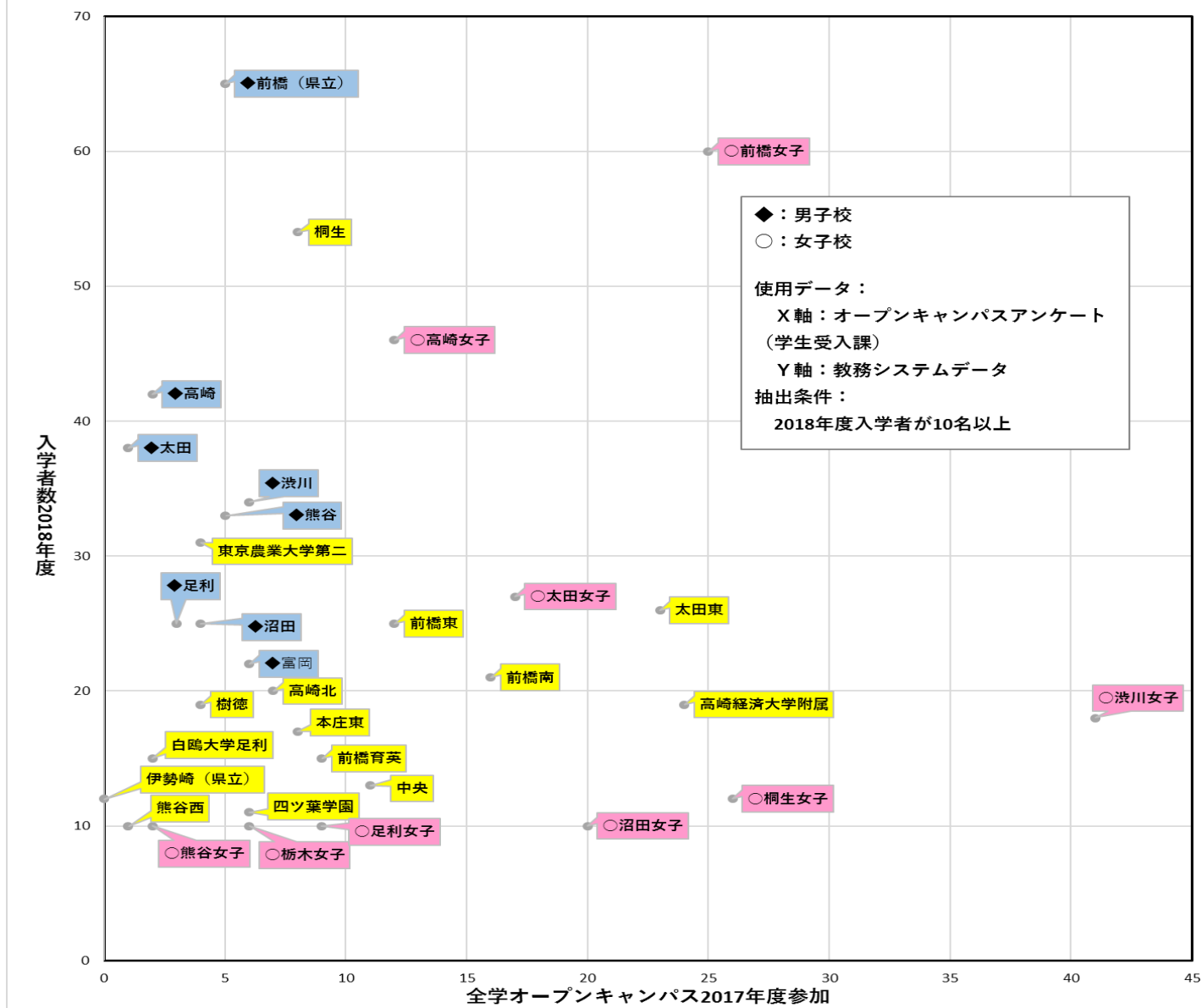
それと同時に、データ作成に関しまして、関係各所で所有していますデータを利用します。データ提供のお願いにあがりましたときにはぜひともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(ウラもぜひご覧ください。)

特集 全学オープンキャンパスと学生入学

データから見える群馬大学への進学の実況

全学オープンキャンパス2017→入学者数2018



目的：オープンキャンパスと実際に入学する学生にはどんな関係があるのでしょうか？本学の入試戦略上参考になるデータを両者から考察します。

使用データ：全学オープンキャンパス「群馬大学1日体験デーGU'DAY2017」参加者アンケート 高校別参加者数・教務システム 2018年度入学者データ

この結果から言えること

以下の2点について言えると思います。

第一に、主に男子校においては全学オープンキャンパス参加に消極的です。全学オープンキャンパス参加者が少ないにもかかわらず入学は多いことからして、男子校では全学オープンキャンパスが本学を志望する契機となっているとは言いがたいです。

第二に、女子はそれなりに全学オープンキャンパスに参加しています。以上の2点から、全学オープンキャンパスは女子学生をメインに考えたほうがいいのかもかもしれません。